

「犯罪からの子どもの安全」キャラバンシリーズ

「東日本大震災に学ぶ、私たちの安全・安心」

- FM 放送や GPS の活用等による世代を繋ぐ安全安心まちづくり-

日時：2011 年 7 月 30 日 18:00～20:00

場所：堺市立東文化会館ホール

主催：NPO 法人さかい hill-front forum、日本市民安全学会、登美丘地区防犯委員会・自主防災会

共催：(独) 科学技術振興機構「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域
一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ

後援：堺市・警察政策学会・大阪府警察本部

プロローグ「ひったくり街道」と呼ばれた頃

・・・須谷修治氏 (財) 都市防災研究所客員研究員

ひったくりやピッキングが多発していた 10 年前、池田小事件をきっかけに「子どもの安全」に対する本格的な取り組みがはじまった。登美丘地区の「ひったくり街道」にセンサーライトが設置されて以降、専門家の立場から活動を支援してきた。合同パトロールなどの効果もあって登美丘地区のひったくりが大きく減少した。大阪府全体のひったくりも大きく減少した。

人と人を繋ぎ、世代を繋ぐ安全安心のまちづくり

・・・池崎守氏 NPO 法人さかい hill-front forum 理事長

一昔前は、「ただ明るければ安全」と考えていたが、2002 年のセンサーライトの設置によって夜道の安全対策に効果が得られた。また、防犯灯の整備、その後の子供の見守り活動を核とした「住民がつくる安全・安心」活動、人と人の繋がりによる問題解決のアプローチ、さらに GPS、ICT、コミュニティ FM の活用、情報広場など多様な手法による多重なまちづくり活動へと大きく発展してきた。その原点は住民自らによる活動にある。200 人規模にわたる合同パトロールがその代表例である。これからも、現場で警察とともに汗を流すことでお互いが信頼関係を構築し、防犯まちづくりを住民主体で進めて行きたいと思う。

災害時に市民の安全安心の砦となった地域 FM 放送

・・・富岡浩司氏 横須賀エフエム放送株式会社社長

FM ブルー湘南は、東日本大震災発生直後の 3/11～3/25 まで震災関連の様々な情報を流し続け、多くの人役に立った。市が得た情報を TV などのマスメディアで放送するには時間がかかるところも、地域 FM では臨機応変に対応して情報を流すことができたのだ。計画

停電情報などの需要は最も多かったため、絶えず情報を発信。病院や百貨店など大きな施設にも個別に連絡を取り、情報を発信することもできた。また、市長自らが「買い占め注意」など市民に呼びかけることもできた。反省点としては、普段から災害時の情報交換の方法などを共有しておく必要があると感じた。現在では 災害情報メール、 防犯メールに約 22,000 人の方が登録をしている。これからも地域 FM の浸透をはかり、地域のネットワークづくりを目指して行きたい。

被災地 陸前高田からの現場報告：コミュニティの崩壊とは？

・ ・ ・ 菅野広紀氏 NPO 陸前高田創生ふるさと会議事務局長

NPO 法人さかい hill-front forum の池崎理事長をはじめ、堺の皆様から多くの支援をいただいた。別途、堺から送られた「ノーパンク自転車」はとても役に立った。現地では仮設住宅の建設がおおよそ整ったが、地域の復興（再生）に向けては多くの課題を抱えている。これからもみなさんの暖かい支援をよろしく願います。

・ ・ ・ 大和田祐一 NPO 陸前高田創生ふるさと会議・米崎消防団部長

津波襲来時に自ら撮影した映像の提供と解説

メッセージ：陸前高田では小学校 3 校・中学校 4 校・保育園 4 園が被災。情報通信がない中、避難所が 80 カ所近くある中で生き残れたのは「コミュニティの繋がり」があったから。携帯電話が繋がった時には 10 日間経っていた。その場で自ら判断して行動することが重要。逃げるときは何ももたなくていい。ただ「靴」を履いて逃げて欲しい。ただそれだけにつきる。

人と人、夢と夢を繋ぐセーフ・コミュニティの魅力

・ ・ ・ 倉持隆雄氏 厚木市役所協働安全部地域力創造担当部長

神奈川県厚木市では平成 13 年度の危険度ピーク時から防犯活動を開始した。例えば「番屋とにぎわい処」など、「安全と魅力づくり」に取り組んできた。平成 20 年にはセーフ・コミュニティ活動を開始。2002～2006 年における事故、自殺で亡くなる青年が増加したことから対策委員会を設置。そして平成 22 年には ISS（インターナショナルセーフスクール）に清水小が認定されるなどの快挙に至った。

3.11 大震災から地域コミュニティは何を学ぶのか

・ ・ ・ 山本俊哉氏 明治大学理工学部教授

東日本大震災ではいかに自然の猛威が巨大か...ハードだけでなくソフトの大切さがわかった。登美丘のまちづくりの魅力は多様性にあると思う。防犯が入口となり、日常的に住民主

体のまちづくりを進め、警察と住民の「信頼関係」、また「外部とのネットワーク」を築いていくことが、いざという時の防災に繋がる。また、同様に大切なことは「感謝」の気持ちにあると思う。どんな時代でも人と人が繋がっていくことが要となるだろう。

コメンテーター

- ・ ・ ・ 小嶋典明氏 大阪府警察本部生活安全部長

35年ぶりに大阪がワースト1位を返上できたこと、皆で喜びたい。防犯カメラの設置が犯罪の抑止に繋がったのでこれからも呼びかけていってほしい。

まとめ

- ・ ・ ・ 石附 弘氏 日本市民安全学会会長

本日のパネルディスカッションをとおして、次の3点の重要性が明らかになった。

- 1、 人と人のつながりが安全・安心を強くする
「子どもの見守り」の輪の拡大、「まちの復興」
- 2、 地域情報の活用
ICT、GPS、GIS、地域FM、情報広場の活用
- 3、 人と人、夢と夢をつなぐ「まちづくりビジョン」をもとう
これからの市民協働のまちづくりの形
WHOのセーフ・コミュニティ、科学的手法と人づくり

「あきらめないこと」「真剣に楽しむこと」を忘れずこれからも活動を続けていきたい。

以上